

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称：特定非営利法人 環境・福祉事業評価センター	所在地： 長野県長野市南高田2-5-16
評価実施期間：令和5年7月10日から令和6年1月24日	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050301 050282 B15020	

### 2 福祉サービス事業者情報（令和5年11月現在）

事業所名： （施設名）たかやま保育園	種別：保育所
代表者氏名： 村長 内山 信行 （管理者氏名）園長 牧 益子	定員（利用人数）：195（134）名
設置主体： 高山村 経営主体： 高山村	開設（指定）年月日： 昭和47年4月1日
所在地：〒382-0837 長野県上高井郡高山村大字高井468	
電話番号：026-245-6842	FAX番号：026-248-5776
電子メールアドレス：hoikuen@vill.takayama.nagano.jp	
ホームページアドレス：https://www.vill.takayama.nagano.jp	
職員数	常勤職員： 15名 非常勤職員 26名
専門職員	（専門職の名称） 名
	保育士 11名 保育士 23名
	栄養士 1名
	調理員 2名 調理員 3名
施設・設備 の概要	（居室数）
	（設備等）
	・乳児室 1室 ・保育室 9室 ・遊戯室 1室 ・調理室 1室 ・事務室 1室 ・トイレ 7室
	・園庭 ・砂場 ・ブランコ ・ジャングルジム ・鉄棒 ・すべり台 ・太鼓はしご ・シーソー ・スプリング遊具 ・複合遊具大

### 3 理念・基本方針

保育理念 子ども一人ひとりを大切にし、保護者からも信頼され、地域にも愛される保育園を目指す
保育方針 心も体も元気な子を育成する「子どもの笑顔輝く保育園」
保育目標 「生きる力を育てよう」

### 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

たかやま保育園は平成20年4月に高井保育園と山田保育園の園児数の減少と園舎の
--

老朽化に伴い統合保育園として誕生した高山村村立として唯一の保育園である。高山村の中心地に位置し、北信五岳を望み善光寺平が一望できる好立地にある。まわりはりんごなどの果樹が多い田園地域にあり豊かな自然環境に恵まれている。園舎と敷地は広く屋外遊具も多く園庭でゆったりと遊べる。園舎の内装は、高山産の木材が使われ、天井や壁には、山田生産森林組合から提供をいただいた杉や唐松材を使い、園舎を支える中心柱には、鎮守の森「天満宮」にそびえる樹齢約 160 年の大木が据えられている。平成 27 年に長野県から「信州やまほいく（信州型自然保育）」普及型として認定を受けている。また、保育標準時間・保育短時間の保育体制が始まり乳幼児からの保育や一時保育を行うなど多様な保育を実施しており地域の子育ての拠点である。統合当時から祖父母・地域とのつながりがあり、保護者会の活動も活発である。

子育て環境は 1 村、1 園、1 小学校なので地域、行政、保護者の連携が密で強い。また教育委員会の所管となっており、村と園の連携がよく取れている。保育園の特長的な活動として行政や近隣地域と一体化した園の運営がある。村内唯一の保育園として、村の認知度は高く、運動会や畑づくり等の園内外の様々な活動において、行政や地域からの支援を受ける園作りがなされている。また、行政機関の一翼として、子育て支援センター等の関連機関と連携し、総合的な子育てサービスを提供出来る事が強みとなっている。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	0 回（今回初受審）
---------------	------------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

①村の中心の子育て支援の役割を果たしている。

「高山村子ども・子育て支援事業計画」により、高山村唯一の保育園として、多様なニーズに対応した保育サービスを提供している。通常の保育に加え、6 か月からの乳児保育、障がい児保育、延長保育、一時保育、土曜日保育を実施し多様な保育サービスを実施している。保育園として保育のドキュメンテーションでは子どもの様子を写真やコメントで提示、食育活動では栄養士が食べ物や栄養についてわかりやすく教える「食育パクパク隊」等の活動、園長、保育士、栄養士、保健師、療養コーディネーター等の子育て相談、「元気 100 倍相談事業」、就学前の「元気っ子」相談など中心の子育てを支援している。

②豊かな自然と木のぬくもりのある園舎、広い園庭と遊具を活かした保育を行っている。

たかやま保育園は、北信五岳を望み善光寺平が一望できる好立地にある。まわりはりんごなどの果樹が多い田園地域にあり豊かな自然環境に恵まれている。園舎と敷地は広く屋外遊具も多く園庭でゆったりと遊べる。園舎の内装は、高山産の木材が使われ、天井や壁には、山田生産森林組合から提供をいただいた杉や唐松材を使い、園舎を支える中心柱には、鎮守の森「天満宮」にそびえる樹齢約 160 年の大木が据えられている。信州やまほいく（信州型自然保育）」普及型として認定を受けている。隣の畑やおたまじゃくし、いなご、ぼった、どんぐり等のおさんぽコースも多く自然にふれあい、多様な環境の中で心も体も育つ保育が行われている。

③村の行政（教育委員会）や子育て支援センターとの連携がよくできている。

高山村では 1 保育園、1 小学校、1 中学校となっている。それぞれ教育委員会の所管となっており、よく連携がとれている。正規職員の係長が副園長として赴任し、子育て支援センターとも人事交流があり情報の交流ができています。小保連絡会、小学校の運動会、音楽会の参加、小学校授業参観交流や中学生の職場体験等さまざまな交流の機会がある。また、子育て支援センター職員が保育園に巡回訪問し、保育園開放や育児の相談事業を共同して行っており、それぞれ連携がよくとれている。

◇特に改善する必要があると思う点

①中長期の園の課題についての見直し

「高山村子ども・子育て支援事業計画」の実施計画は令和 2 年度から 6 年度までの 5 年間として計

画され保育サービスについても計画に沿って実施されてきました。次期中期計画を作成する時期が近づいている。この4年間を振り返り、園独自の中長期の課題について、保護者や地域等と連携し、高山村子ども・子育て協議会・高山村（教育委員会）や議会との協議をふまえ課題について見直す機会を持つことを推奨する。こども家庭庁の開設に伴う外部環境の変化として就業を伴わない子育て支援としての保育型認定こども園の検討、園の照明設備をLED化する等の改修計画、ICT（情報通信技術）導入等の新規設備計画、子どもの減少と未満児や障がい児の増加に伴う適正な人員配置の検討等の中長期の課題について積極的に取り組まれることを期待する。

#### ②安心、安全の全体的な取り組みについて定期的な見直し

子どもの安心、安全な取り組みでは、非常災害時の対策として月1回の火災想定等の避難訓練が実施され、非常用電源等の設備が用意されている。また、食物アレルギー対応や衛生管理も適正に維持管理している。利用者アンケートにあるように保護者の安心、安全の関心は高く要望が多い項目である。危機対応要領を定めさまざま危機管理に取り組んでいるが改善点や見直す事項はないかさまざまな観点から定期的に検討することを推奨する。具体的には、職員口門の開閉の管理、未満児利用のなかよし広場でのプール利用について検討されることを推奨する。また、マニュアルの見直し時期の明示、安全計画を保護者に知らせるための玄関への掲示やおたよりでの周知、散歩コースの定期点検、近くの道路や散歩に通る道路について道路管理者とゾーン30やキッズゾーンの検討、不審者対応での防犯カメラの設置、BCP（事業継続化計画）の検討、心肺蘇生法、気道内異物除去、AEDの使用等の緊急対応については継続した研修を期待する。

#### ③業務負担軽減の取り組み

保育の現場・職業の魅力向上には、保育士にとって生涯働ける魅力ある職場づくりを行うことが不可欠である。そのためには、園長が組織運営のためのマネジメント力を向上させ、職員と業務負担の軽減や働き方の見直しなどについて話し合い、保育士として働くことの魅力とやりがいを感じられる勤務環境にしていくことが求められている。正規職員以外に1号任用職員、2号任用職員と担任補助や代替の職員を充実させている点は評価できる。業務負担の軽減では、保育士が子どもたちから離れ、事務作業などを行うことに専念するノンコンタクトタイムの確保による働き方の見直し、保育の現場における計画・記録など保育士の書類作成業務の見直しや保育補助者の活用、パソコン、タブレットやスマートフォンを活用したICTを周辺業務に活用していく取組等が考えられる。記録の標準化やICTの活用では改善できる余地があると思われる。また、保育の現場では、感染症やけが等緊急事態の発生で現場での対応が求められる。大規模な保育園では看護師の採用で保育士の負担軽減につながっているケースがあるので今後の検討課題とすることを推奨する。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

（令和6年 1月19日記載）

昨年は園独自で保護者アンケートを実施し、ご意見・要望点について改善できるところは対応してきました。今年はより専門的に第三者評価を受審し、客観的に評価いただくことで、園としてあるべき姿や、現状の不十分な状況を再確認し、改善すべき点に力を入れていきたいと考えていました。

今回の評価を受け、職員・保護者・地域とともに、村の1つしかない公立保育園の中・長期的なあるべき姿を検討していくことや、子どもたちが安心・安全に園生活を過ごせるよう、未整備の各種マニュアルの作成や見直しを行っていくこと、職員の業務負担軽減に取り組み、働きやすい職場になるよう改めて課題点を気づかせていただきました。

これからも保護者と園がより友好的なコミュニケーションを確立して、子どもたちがそれぞれの権利や自由を保障され、安心して園生活を送る中で、子どもたちの「生きる力を育てる」ために保育の質の向上と環境整備に努めていきたいと考えます。